

平成 24年 11月 4日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 酒井睦夫 様

議会報告会 4班
班長 藤井 俊行
笠原 久恵
阿部 治正
森 亮二
徳増 記代子
中川 弘
田中 人実

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

記

- 1 日時 平成24年11月4日（日）
午前9時30分～午前11時30分
- 2 場所 南流山センター
- 3 欠席議員 なし
- 4 参加者数 8名
- 5 報告内容
[前半] 共通テーマ
平成23年度決算報告
[後半] 各班独自テーマ
防災対策での自助・共助・公助

6 意見交換内容

○防災における自助、共助、公助

参加者 井戸水はそのままでは飲料水としては使えないと思う。濾過機の設置が必要ではないか？

議員 行政が提供するものは 50 項目の検査が必要、市民が私的に使用する際にも 11 項目の検査が必要。濾過機の設置をしている自治体もある。自治体の助成も必要ではないか。

議員 市ではトラックの後ろに水のタンクを積んだ装置。12 基を用意する予定。

議員 井戸水は最後の砦かも知れないが、しかし濾過による使用には限界もある。個人での備蓄が重要。大規模事業者は雑用水に井戸水を利用している。が、このことは水道事業に影響を及ぼす。

参加者 耐震補強について。今年度は助成枠増やしたが、診断が増え、次は工事という段階で、9 月議会が終わらないとおカネが出ないということになった。待っている間に工事をやめたお客もいる。予算上は難しかもしれないが、年度初めの段階で、診断や工事が出来るようにしてほしい。予算の都合で工事を止めることのないように。

防災計画はマニュアル化して目に見えるものにして欲しい。市民の側からもマニュアルを点検したい。障がい者用、自治会用など、様々な種類のマニュアルが必要。

原発事故を想定すれば、安定ヨウ素剤が必要となる。流山市ではどうするのか。

洪水を想定した避難計画がないが、早目に決めて欲しい。

議会閉会中は議員が動けなくなっているが、閉会中でも市民の代表なので活動できるようにしてほしい。

議員 希望者全員に予算確保できれば良いが、財政面からそこまで至っていない。診断を受けた方については、条件をつけて補助の枠を広げるとかの手立てを検討したい。

議員 執行部の方でもどのくらい工事申請が上がってくるかが読めてい

なかった。必要だと言うことで9月補正で追加をしている。来年は、補正をベースにして予算計上される。

議員 耐震補強の工事の費用がかなりかかると、二の足を踏む人も。建物全体を守ると言うよりも、寝室などを耐震化する、耐力壁で室内から補強するなど、低廉な方法を業者の方からも提案して欲しい。

議員 色々なマニュアル、水害の際の避難所を定める必要については、その通り。防災計画も何年かに一度見直し規定があるので、その中で対応していくべき。個人的には、自治体による安定ヨウ素剤の準備は重要だと思う。

議員 2011年の3月議会は震災の真っ最中だった。その日は地域に戻って市民の声を聞く活動を行った。何日か休会という規定はないので、議会で考えていきたい。

議員 地方自治法が変わり、通年議会も可能になった。通年議会化すれば災害にも対応できる可能性がある。

議員 閉会中に議員が動けないということはない。各常任委員会でも、委員長が招集をして協議できる。28人の議員がいるので、住民の要望を聞く活動は可能。地域の議員と連絡を取って欲しい。

議員 各常任委員会は、閉会の際に、所轄する事務調査について活動できるという承認を取っている。断水の折にも、もし長引いていれば委員会の開催は可能であった。

参加者 災害対策本部に議会の代表が参加することも必要ではないか。

議員 相馬市では議員が災害対策本部と言うことでひと部屋取り、執行部とも常時意見交換を行っていた。議長の判断での対応は可能だと思う。マニュアル化は出来ていないので、議会の中で議論をし、合意を得られればそういう方向を目指すことは可能。

議員 議員が関与すべきという議論にも、非常に難しい問題がある。議員がバラバラに動くと、全体の復旧が遅れることにもなる。一本化した対応が必要。

議員 緊急時に際して議会は行動する必要があるが、議会は執行部とは機能が違う。議会独自、議会固有の機能を意識しながら、仕事をやっていく。

参加者 借金を減らすことは重要、計上したものを全部使う必要はなく、残しても良い。議員を減らすことも、借金を増やさない方法として必要ではないか。

議員 予算を残しそうになれば減額補正となる。残したのは良くないと主張する議員はいなかった。20年前と比べ今の議員と議会は違っているし、活動量も増えている。活動することによって生じる予算もある。行政全体として効率、効果を上げる使い方であれば認めてほしい。

議員 借金と言うことでは、区画整理事業では下水道、水道など、未来に対して投資をしていく。将来の住民にも負担をして頂くとすることで市債発行。市の借金がすべて金がないから借りているというものではない。家庭の借金と少し違う。この3～4年はお金がかかるが、将来的には財政調整積み立て基金を増やしていくと執行部は言っている。

議員 市民には税金の使い方を厳しく、いろんなところに目配りしながらチェックして欲しい。執行部は、クリーンセンターの委託の失敗で数千万円の出さなくて良い損失を出している。議員の提案で、電力調達を新電力に切り替えて年間1900万円のお金を浮かせることも出来た。議員を減らすと言うことだけでなく、こうした点も見たい。

参加者 クリーンセンターのことは聞いている。執行部は都合の良いことは報告するが、都合の悪いことは報告しない。議員にはそれを市民に知らせる仕事が期待されているはず。28人の議員がすべてきちんとした仕事をしているか疑問な部分もある。

議員 地球温暖化に対し2020年までに住宅の高断熱化で対応する計画がある。住宅の前に公共建築の断熱化が必要。公共建築も高断熱化をやると予算はどうか。小中学校の冷房化、断熱化、ペアガラス、国は成長戦略で出している。これらを自治体でやるとどれくらいのお金がかかるか調査をして欲しい。それに基づいて、国に対する要求・要望も必要。

議員 小中併設校の計画が進んでいるが、華美にならないように、他の学校で必要とされている事業が差し戻されないよう、きちんと進められるよう等々、お金の使い方を議会ではチェックしている。

議員 議員定数については、議会でも、公聴会や意見交換会を通して検討していこうとしている。定数を減らす、増やす、報酬を減らす、増やす、様々な考え方がある。公聴会は必ず開催して、市民の意見を聞きながら、最終的には議員から議案をあげていくことになる。議会の審議内容に注目して欲しい。

参加者 市の審議会の審議委員が適正かどうか、偏りがいないかなど、審議委員を選ぶ方法も再検討する必要がある。イギリスの「審議会革命」も参考に。

議員 市の審議会にはかつては議員枠があった。議決の予備審査になってよくないとの意見もあり、今は法で定められた審議会にのみ出ている。現市長になってからは、公募の審議委員を増やしているが、一部に弊害も出ている。専門家でない故に弊害も起きている。、都市計画審議会で宮園地区の地区計画が審議されたが、2～3丁目は住環境だが、1丁目は鱈ヶ崎とつながっている。そこまで地区計画に入れると既存の中高層の建て替えができなくなり、地元の意見が無視されることになってしまうが、公募委員が執行部案に賛成してしまった。公募の場合は専門知識のある人を入れる必要ある。

参加者 今日はクリーン作戦という全市的な行事のある日。この日を議会報告会としたのは、無神経。9時30分開始というのも厳しい。夕方からやることも検討してほしい。

議員 ごみゼロ作戦は11月下旬という認識で、逆にこの日なら重ならないだろうと言うことで設定した。その後、クリーン作戦日であることを知った。情報をきちんと把握しきれなかったことは反省したい。

7 参加者から議会への要望

- ・生活水の井戸に濾過機をつけてほしい。
- ・耐震助成金を年度初めから使えるようにしてほしい。
- ・防災計画のマニュアル本を作してほしい。
- ・原発事故を想定して安定ヨウ素を市で用意してほしい。
- ・洪水を想定した避難計画を作してほしい。

・国は地球温暖化に対し2020年までに住宅の高断熱化で対応する計画があり、市としての対応はどうなるのか考えてほしい。

・議員定数について議論してほしい。

・審議委員の任命基準についてチェックしてほしい。

・議会報告会の開催日程、時間を検討してほしい。

8 所感

当日はゴミ0の日程と重なったこともあり、参加人数はかなり少なかったが、建築関係の専門家の方や議会に関心の深い方などが参加されたこともあり、質問や要望が多数あげられ、意義深い議会報告会になったと考えます。

開催時間についても、若い世代を対象とする場合は、もっと遅す時間帯が良いのではと会場からも声があった。
(今後の開催は、開始時間も考慮する必要もあるかも)